

熊本大大学院神経内科学分野の安東由喜雄教授（医学部長）、植田光晴講師らの研究グループは26日までに、臓器不全や感覚障害を引き起こす疾患「アミロイドーシス」の原因となる新たな異常タンパク質を発見した。

同日に熊本市中央区のK Rホテル熊本で開幕した「国際アミロイドーシスシンポジウム」で報告した。アミロイドーシスは、繊維状の異常タンパク質「アミロイド」が臓器や神経な



安東由喜雄教授

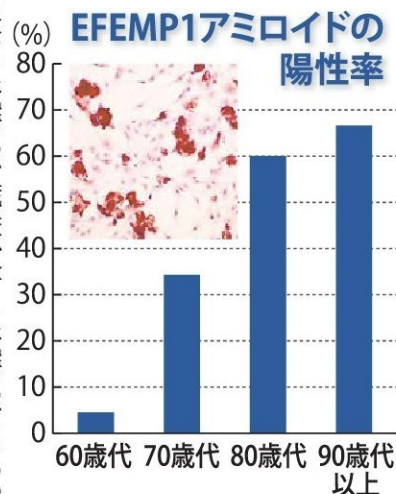


植田光晴講師

熊本大・安東教授G

臓器不全など引き起こす疾患原因

新異常タンパク質 発見



熊本大の患者83人の消化管組織を分析、過去5年分

ど体内に沈着し、臓器不全や感覚障害を引き起こす疾患。これまでに36種類のアミロイドが特定されている。

今回は山口大との共同研究。山口大は2001年に、大腸などの消化管から出血した高齢者から、原因不明のアミロイドが見つかったと報告していた。

安東教授らは、過去5年間に消化管から出血した患者83人の消化管組織を分析。70歳代(32人)の34%、80歳代(25人)の60%、90歳以上(3人)の66%から、「EFEMP1」と呼ばれるタンパク質が血管内など

に沈着しているのを確認した。正常な「EFEMP1」は血液などに溶けているが、付着していたものは構造異常が見られたという。

一方、60歳代(23人)では5%未満で、年齢が高くなるにつれ「EFEMP1」由来の異常タンパク質が見つかる確率が上がっている。安東教授は同日の開幕講演で「老化に関連した、新たなアミロイド疾患の可能性がある」と述べた。

同学会は29日まで。39カ国のアミロイドーシス研究者ら約700人が参加する。(林田賢一郎)